

平成25年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立陽南中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、「開かれた学校づくり」を推進し、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり、その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成25年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

I 調査の概要

1 目的

- ア 国が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における、児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- イ 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ウ 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査期日

平成25年4月24日（水）

3 調査対象

第3学年

4 本校の参加状況

- | | | | |
|-------|------|-----|------|
| ① 国語A | 272人 | 国語B | 272人 |
| ② 数学A | 272人 | 数学B | 272人 |

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「全体的な傾向」、「分類・区分別の傾向と課題」、「指導改善のポイント」などの分析を併せて記載した。

Ⅱ 調査結果の概要

1 国語

全体的な傾向

- ・ 領域、観点ともに全国平均正答率とほぼ同程度の割合である。
- ・ 読む能力において、課題が見られる。

<分類・区分別集計結果>

【国語A】

分 類	区 分	対象 設問数 (問)	平均正答率 (%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領 の領域等	話すこと・聞くこと	4	78.0	79.2	77.6
	書くこと	4	64.1	67.1	64.5
	読むこと	6	78.7	82.3	80.0
	伝統的な言語文化と国語の特 質に関する事項	18	76.4	78.2	77.5
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0			
	話す・聞く能力	4	78.0	79.2	77.6
	書く能力	4	64.1	67.1	64.5
	読む能力	6	78.7	82.3	80.0
	言語についての知識・理解・ 技能	18	76.4	78.2	77.5
問題形式	選択式	21	76.6	79.2	77.3
	短答式	11	73.3	74.9	74.7
	記述式	0			

【国語B】

分 類	区 分	対象 設問数 (問)	平均正答率 (%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領 の領域等	話すこと・聞くこと	0			
	書くこと	3	60.7	63.3	62.7
	読むこと	8	67.0	69.9	67.8
	伝統的な言語文化と国語の特 質に関する事項	1	65.8	63.0	64.6
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	60.7	63.3	62.7
	話す・聞く能力	0			
	書く能力	3	60.7	63.3	62.7
	読む能力	8	67.0	69.9	67.8
	言語についての知識・理解・ 技能	1	65.8	63.0	64.6
問題形式	選択式	5	67.6	70.4	68.2
	短答式	1	82.0	80.9	77.5
	記述式	3	60.7	63.3	62.7

※ 1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

分類・区分別の傾向と課題

●…課題があるもの

【話すこと・聞くこと】

●話し合いでの司会の発言の役割について理解することはできているが、個々の発言の内容を整理しながら話し合いの方向を捉えて話すことに課題がある。

【書くこと】

●根拠を明確にして自分の考えを具体的に書くことに課題がある。

【読むこと】

●課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考えることに課題がある。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

●文脈に即して漢字を正しく書く、読む割合が、宇都宮市の平均正答率と比べると低い。

国語に関する生徒質問紙調査の状況

●…課題があるもの

《傾向》

○国語の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思っている割合が高い。

○国語の勉強は大切である、授業の内容もよくわかっている割合も高い。

●問題の解答時間が十分でないと感じている生徒の割合が高い。

指導改善のポイント

【話すこと・聞くこと】

司会の役割を果たす力を身につけるために、具体的場面を設定して確認するとともにどのような声を掛けるのが適切かを具体的に考えるよう指導する。

【書くこと】

自分の考えを具体的に書く力を身につけるために、興味、関心を明確にした上でなぜそこに着目したか、自分はどのように考えるか丁寧に書くよう指導する。

【読むこと】

具体的な言語活動を設定し、明確な目的をもって本や文章を読み、自分の課題の解決に適した手段を選ぶよう指導する。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

書くこと、読むことの指導には、漢字の字形や画数などの基本的な事項を確実に指導し、組み立てに着目したり、他の熟語を想起しながら理解を深めていく指導をする。

2 数学

全体的な傾向

- 大きな差異は認められないと考えられる範囲内であるが、宇都宮市、全国に比べ、平均正答率を下まわった領域、観点が多い。
- 基礎的、基本的な知識、技能を活用することができるかどうかをみる問題に、課題が見られる。

<分類・区分別集計結果>

【数学A】

分 類	区 分	対象 設問数 (問)	平均正答率 (%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領 の領域	数と式	11	69.4	73.5	72.7
	図形	12	61.7	66.4	64.6
	関数	9	54.6	60.0	58.7
	資料の活用	4	41.8	48.3	46.8
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0			
	数学的な見方や考え方	0			
	数学的な技能	17	62.5	68.7	67.9
	数量や図形などについての 知識・理解	19	57.9	61.6	59.8
問題形式	選択式	18	59.7	63.6	61.8
	短答式	18	60.4	66.3	65.5
	記述式	0			

【数学B】

分 類	区 分	対象 設問数 (問)	平均正答率 (%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領 の領域	数と式	5	38.5	43.0	41.7
	図形	2	36.6	45.1	44.8
	関数	6	37.4	40.1	40.0
	資料の活用	3	38.6	43.8	42.2
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0			
	数学的な見方や考え方	12	30.4	35.0	34.8
	数学的な技能	2	53.7	55.7	53.1
	数量や図形などについての 知識・理解	2	67.3	72.8	70.7
問題形式	選択式	4	38.6	43.2	43.3
	短答式	5	54.6	57.8	55.8
	記述式	7	25.6	30.8	30.3

※ 1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある

分類・区分別の傾向と課題

●…課題があるもの

【数と式】

●数量の関係を文字式で表すこと、一元一次方程式を解くことなどに、課題が見られる。

【図形】

○見取図、投影図から空間図形を読み取ることなど、全国と比べると割合が同程度とみられる。

●示された方針に基づいて、証明することに課題が見られる。

【関数】

●事象を数学的に解釈し、他の事象との関係を考えることに課題が見られる。

【資料の活用】

●与えられたヒストグラムについて、ある階級の相対度数を求めることに課題が見られる。

数学に関する生徒質問紙調査の状況

●…課題があるもの

《傾向》

- 全国、宇都宮市と比べて、数学の勉強が好き、数学の勉強は大切であると肯定する割合が高い。
- 学習したことを普段の生活の中で活用できないか、将来、社会に出たときに役に立つと考えている生徒の割合が高い。
- 解答を言葉や式を使って説明する数学の問題について、最後まで解答を書こうと努力したと回答している生徒の割合が低い。

指導改善のポイント

【数と式】

基本的な計算の確実な定着を図るために、反復練習の充実を図るとともに、よくみられるつまずきの解消を目指した活動の充実を図る。

【図形】

証明の方針を立てる力を育てたり、推論の過程を明確に表現する力を育んだりするなど、結果を振り返って考える活動の充実を図る。

【関数】

関数の意味を理解し、 y が x の関数であるかを判断することができるようにするために、様々な事象の中で関数であるかどうかを確かめる活動の充実を図る。

【資料の活用】

資料を分類整理し、資料の傾向を着目した代表値、ヒストグラムの特徴など、根拠を明確にして説明できるよう、指導を工夫する。

3 生徒質問紙調査

●…課題があるもの

《傾向》

◎全国平均と比較し、±5 ポイント以上の差がみられる項目を本校の特長課題ととらえて分析したところ 5～10 ポイント以上高い項目が23項目、10 ポイント以上高い項目が13項目あり、全83項目中36項目で「当てはまる」とはっきりと肯定する生徒の割合が高く、逆に低かったのは4項目しかなかった。

主な

《特長》

- 朝食を毎日食べる、毎日同じくらいの時刻に寝ている割合が全国に比べ高い。
- 家の人とふだん夕食を一緒に食べ、学校での出来事について話をしている割合が高い。
- 学校に行くことは、楽しいと思っている生徒の割合が高い。
- 学校で友達に会うことは、楽しいと思っている生徒の割合が高い。
- 規範意識が高く、人の気持ちがわかる人間になりたいと考えている割合が高い。
- いじめはいけないと考えている割合が高い。
- 国語や数学の授業を好きと感じ、それらの勉強を大切だと思っている割合が高い。
- 国語や数学の授業の内容がよくわかると回答している割合が高い。

《課題》

- 1 か月に本を読む冊数の割合が全国平均を下まわっている。
- 家の人に勉強しなさいと言われる傾向が高く、学校の予習、復習をする割合が低い。
- 地域の行事に参加する割合が低い。